

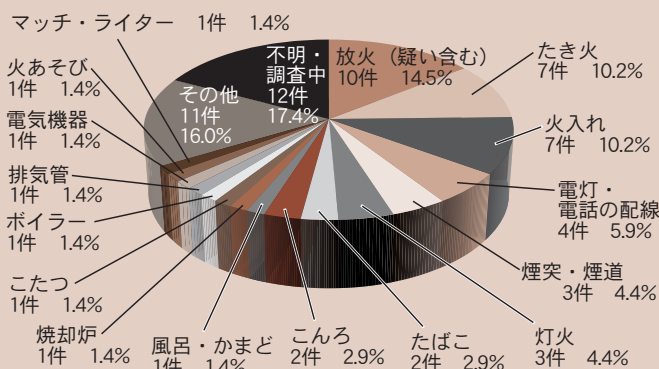
# 日ごろの注意が火災を防ぐ

【図1】平成20年 登米市火災発生件数 (単位: 件)

	建物	山林	車両	その他	合計
平成20年	33	3	5	28	69
平成19年	30	6	5	18	59

資料「2009年 消防年報 とめ」

【図2】平成20年 登米市火災出火原因 (単位: %)



資料「2009年 消防年報 とめ」



## もしも火災が発生したら

■まず慌てずに「初期消火」

万一火災が発生してしまっても、初期の段階で消火できれば火災が大きくなることを防ぐことができます。火の小さいうちであれば、水や消火器を使って消火しましょう。初期消火のポイント「ゆっくり・慌てず・落ち着いて」行動することです。ただし、炎が自分の身長以上に達するまで、自分で消火できる目安です。炎によって身の危険を感じた場合は、素早く安全な場所に避難することも重要です。

■正しい知識を「消火器」

消火器は、学校や会社、家庭など身近に見る機会が多いなじみの深い消火器具です。しかし、実際に火災が発生した場合に気が動転して「簡単な使い方なのに使えない」といったことがあります。また、日ごろの維持管理が不適切なため、古くなった消火器が腐食して破裂するなど、重大な事故も発生しています。「いざ」という時に効果的に消火器を使い、消火するため、消火器の使い方や点検方法などの正しい知識を身に付けましょう。

## 登米市火災原因 1位は「野外での焼却」

平成20年中(1月1日から12月31日まで)に、市内で発生した火災は69件で、前年同期に比べて10件も増加しています。火災種別ごとに見ると、林野火災が3件減少の3件、車両火災は前年同数の5件となっていますが、建物火災は3件増加の33件、その他火災が10件増加の28件と、特に枯れ草火災などの「その他火災」の発生が多くなっています【図1】。また、出火原因別を見ても「たき

「自分は火災なんか起こささない」。皆さんの心の中にそんな思い込みはありませんか? そんな「火災を起こささない」などという保障はどこにもありませんし、その油断こそが火災を招く原因となります。事実、昨年内で発生した69件の火災の約6割が過失によるものでした。火災を未然に防ぐためには、一人一人が火災を起こさないように「防火対策」を心掛けることが重要です。全国的に火災が発生しやすいこの季節。11月9日から15日まで「秋の全国火災予防運動」が実施されます。かけがえのない生命や財産を火災から守るため、わたしたちができる取り組みなどについてこの機会にあらためて考えてみましょう。

火「や」火入れ」が9件増加の14件(22.4割)と、昨年の1位の「放火(疑いを含む)」10件(14.5割)を上回る出火原因となっています【図2】。

その「たき火」や「火入れ」による火災を防ぐためには、「家庭のゴミを庭先などで焼却せず、決められた収集日に搬出する」、「農作業のため、枯れ草などを焼却する際でも、風向きや焼却範囲などに注意し、確実に消火するまではその場を離れない」などといった日ごろの心掛けが重要です。

## 消火器の使い方



1 ■火元に近づき消火器の上にある安全栓を上引き抜く ※運ぶ途中にレバーを握って火と空気が漏れ出す恐れがあります。



2 ■ホースをはずし、ホースの先端を握り火元に向ける ※ホースの途中を持つと、放射の圧力などから狙いが定まらず、的確に放射できない恐れがあります。



3 ■レバーを強く握ってほうきで掃くように放射する ※力のない人は、消火器を地面に立てて上から押しましょう。放射時間は約20秒しかありませんので慎重に!

## 消火器の点検箇所

※炎が天井まで届いてしまった場合は、消火器などによる消火は困難です。このような場合は決して無理をせず避難し、速やかに「119番通報」をしましょう。

- 安全栓がついているか
- キャップに緩みはないか
- 容器にサビや変形などはないか
- ホースに詰まりや割れはないか
- 圧力ゲージ付きのものは、圧力を示す針が規定値内にあるか

■慌てず正しい情報を「119番通報」

119番通報の際には、まず初めに「火事」か「救急」かを伝え、次に「発生場所の正確な情報」を伝えます。消防車がいち早く火災現場に到着するためにも、「正確な情報」が大変重要になります。「早く早く」「おらいの2軒隣が火事」などでは聞き直しなどにより、火災個所の特定に時間が掛かってしまい、消火活動が遅れてしまいます。